

# 全酪連会報 5

2026 MAY No.728

酪農とのかけはし／横山武文先生

第77年度(令和8年度)事業計画案

品質保証室だより／梅雨がくる前に行う夏場のエサ管理

大規模酪農施設シャインコーストファームが完成

日本酪農見て歩紀／農事組合法人細越牧場(秋田県山本郡三種町)

酪農トピックス

作品募集のお知らせ

全酪新報ダイジェスト版

第53回 全国酪農青年女性酪農発表大会開催のご案内



全酪連 定期刊行物のご案内

バックナンバーはQRコードから閲覧いただけます。



全酪連会報

⇒ <https://www.zenrakuren.or.jp/kaiho/>



COWBELL

⇒ <https://www.zenrakuren.or.jp/cowbell/>

フォローして最新情報をチェック!

全酪連 X公式アカウント  
はじめました!  
@zenrakuren



全国酪農業協同組合連合会

# 酪農との かけはし



米寿の神の手  
第61回 横山武文 先生

## 乳牛と共に、 今後も



▲ 横山先生が書いてくださった文章

今回は全酪連大阪支所で技術顧問として農家や本会職員の指導を行っている横山武文先生にお話を伺いました。取材の前に横山先生がこれまでの実績や経歴を詳細にまとめてくださったので、大部分をそのまま使わせていただき一部担当者が書き加えるという形でお送りします。

### 乳牛との出会いが、獣医師の道へ

有畜農家創設事業の一環として、我が家に乳牛が導入されたのは、昭和28年でした。その後指導に来てくれた森永乳業の獣医師の先生から「獣医師にならないか」と声を掛けられ、昭和31年に宮崎大学農学部獣医学科に入学。獣医師の道を進むことになりました。



▲ 横山武文先生

### これまでの職歴

大学卒業後、最初の就職先は広島森永牛乳でした。指導してくれる先輩はおらず、全て自己流でのスタートとなりました。しかし、これが後の技術向上の原動力になったことは間違いありません。

14年後、熊本県酪連から指導者と

して来て欲しいと求められ熊本県へ、その後熊本県経済連から酪農課を新設するのでチーフとして来て欲しいと求められ移籍しました。

13年後、実家から後継として呼び戻され、香川県NOSA I連で11年間家畜の診療と指導に携わり、定年後はJA全農の酪農専門委員として、また子会社の四国くみあい飼料の社員として16年間勤務の後、全酪連から声が掛かり、現在に至っています。

### 勤務先での実績

#### ①繁殖検診を主体とした酪農経営指導

熊本に移ってからは、毎日100頭以上の妊娠鑑定を中心とした指導が

続き、技術は向上、受精後超早期での妊娠鑑定とその正確性が認められたため、いつの間にか「神の手」と称される様になりました。四国に帰ってからその評価は続いています。今までに直腸検査で1日に妊娠鑑定した最大頭数は264頭です。現在はエコーを使って鑑定をする先生が多いですが、横山先生は機械には頼らず自分の手を信じ、種付けから30日以降経過した段階で検診を行っています。

#### ②乳牛導入で規模拡大と乳牛改良に貢献

昭和48年から乳牛導入に携わり、累計で北海道から6,000頭を超える導入を行いました。中でも昭和51年に導入したミスレディクリスタルデコール号は熊本県乳牛共進会で初産時から3年連続でグラウンドチャンピオンに輝き、第7回全

共にも出品されました。

今年に入ってから徳島県と香川県内で導入の希望があり、酪農家と一緒に北海道に渡り、北見・十勝市場まで足を運び導入牛を選びました。



▲ ミス レディ クリスタル デ コール

選畜のポイントは、

1. 長命連産が大事になるので、足がしっかりと食い込みが良く、産次を重ねるごとに立派になる可能性を秘めた牛でなければいけない。
2. 牛は必ず手で触って選畜する。暴れるからと言って、目で見ただけでは良い牛は選べません。
3. 乳房は乳が出ないと価値がないので、乳房は念入りに見なければならぬ。牛の後分房は前分房より立派なのが当たり前。したがって、大切なのは前分房で、前分房の立派な牛を選定すれば、後分房は自然と良くなる。

4. 乳房の余裕は、掌で乳房の皮膚をしつかりつかみ、前方・下方と左右

バランス良く、適度の余裕と弾力があるものを選ぶ。

この4点が選畜する上での大きなポイントになるそうです。

### ③ 乳牛受精卵移植の実施

昭和60年、北海道農業公社の山科先生に師事し、受精卵移植技術を習得、全国の経済連では初めての受精卵移植を実施。昭和62年には熊本県立農業高校から要請を受け授業の一環として、肥後赤牛から採卵し、二卵移植で双子生産として指導しました。四国に帰ってから多くの牛からの採卵移植を行ってきました。

### ④ 乳牛共進会での審査

熊本県内各地での共進会で乳牛の審査員としても携わり、四国でも高知県から依頼され乳牛改良に携わって来ました。

### ⑤ 繁殖検診と配合飼料の処方設計

今年88歳となり米寿を迎えましたが、現在も四国・中国地方の農家へ毎月1回訪問し繁殖検診を行っています。

繁殖検診では受胎・不受胎の判定だけでなく、卵巣や子宮の状態を評価し、エサ全体の設計や給与量のアド



▲ 繁殖検診の様子

バイスも行っています。全酪連の技術顧問になってからも栄養要求量に基づき、「デリーイプログレス」「デリーイコンバート」「全酪はぐくみ」といった配合飼料を処方設計し、繁殖検診先の酪農家に使ってもらっています。

### 私の信条

- (1) 行動を起こすとき、何が酪農家のためになるかを考える
- (2) 酪農に関することは酪農家が先生である
- (3) 人より優れたものを必ず1つは身に付けておく
- (4) 妊娠鑑定に間違いは許されない
- (5) 人生常に挑戦

### 今後の酪農に期待すること

酪農は国民に夢を与え、健康を支え、国土を保全する重要な産業です。

しかし、酪農業界も少子高齢化の影響を受け減少傾向にあります。絶やすすわけにはいきません。そのため、酪農業を拡大していくためには儲かる酪農が必須です。儲かる酪農のためには、施設や管理技術が重要なことはもちろんですが、それ以上に良い牛を揃えることが基本となります。

今後、地球温暖化がますます進むことが予測され、乳牛の暑熱への適応性の向上や粗飼料の減収や成分の低下に対する対策等、難題を抱えているだけに酪農家の新しい技術を駆使した日々の努力が期待されています。

最後に、横山先生のさらなるご健勝とご活躍を願っております。毎月、横山先生の繁殖検診に同行させてもらっていますが、米寿になっても酪農家のためにと、思いつく限りの姿勢に感銘を受け、自分もその姿勢を見習い、少しでも酪農業界に貢献できるように日々精進したいと思えます。取材にご協力いただき誠にありがとうございました。



▲ はぐくみ紙袋デザイン

# 事業計画案

本会は、第十三次中期事業計画（令和6～8年度）に基づき事業を展開しています。最終年度となる令和8年度事業計画は、3月3日開催の理事会で承認され、最終的には7月30日に予定している通常総会に諮ることになります。

以下に、第77年度（令和8年度）事業計画（案）の重点施策について報告いたします。

## I 基本方針

令和8年度は、「全酪連将来ビジョン」及び「第十三次中期事業計画」の最終年度にあたる。「全酪連将来ビジョン」の主眼である持続的な酪農生産基盤の構築を目指して、酪農が直面する課題に柔軟に対応しつつ、SDGsや物流問題に関する社会的要請に応え、実効ある行動を着実に積み重ね、これまでの取組を結実させなければならない。

このことを事業推進の基本に据えて、①酪農経営環境の安定化、②酪農経営の持続力向上、③酪農生産物の販売強化、④組織運営の効率化と財務体質の充実、⑤ガバナンスの強化の事項

ごとに施策を展開する。

## II 重点実施施策

### 1. 酪農経営環境の安定化

#### (1) 搾乳用後継牛の確保

①各種研修会を通じ、搾乳用後継牛の確保を目指した経営展開に関する資料（「儲けるためにホルをつけてよう」等）を用い、計画的なホルスタイン授精性選別精液の活用を啓発する。

②搾乳用素牛の産地資源状況を発信し、CerteiMサービス（牛個体識別情報管理サービス）を活用した庭先購買の他、展示購買等も行い、会員の乳用牛導入事業が円滑に行われるよう努める。

#### (3) 搾乳用後継牛確保を図るために、全国連としてのネットワークおよび補助事業を活用した広域的預託事業を実施し、併せて国内粗飼料の有効活用につなげる。また、受入態勢を

拡充した若齢預託矢吹牧場と若齢預託熊本牧場を充分に活用することで、より多くの酪農家の労働力の軽減と自家産後継牛の確保を推進するとともに、販売預託事業の円滑な運営にも資するよう整備する。

#### (2) 需給環境に対応した生乳販売体制の構築

①開牧するシャインコーストファーム（以下、SCFとする）など地域ごとの生産動向を踏まえつつ、指定生乳生産者団体と連携して、取引先乳業者の飲用需要に対して適切に生乳を供給するとともに、北福岡工場及び関連乳製品工場における乳製品製造・販売を通じた需給調整を実施する。

②本会及びびらくの乳業（株）への出資者等によって構成される「東日本地域における生乳需給基幹施設コンソーシアム」などを通じて、らくの乳業（株）の令和10年度からの操業に向けた課題の整理及び進捗を管理する。

#### (3) DMS（酪農家経営管理支援）システムの更なる支援強化

①DMSシステム利用者に対して、個

別経営診断や蓄積データを集計・分析し、検証結果と課題解決のための助言・提案を行う。

②生産者の経営データを継続的に取得することで、当該地域における酪農経営の実態を把握し、生乳生産予測や経営安定に寄与できる体制を構築する。

③経営改善や経営継続につながった事例をモデルとし、経営改善までの道筋を類型化することで、様々なケースで応用できるフォロー体制を構築する。

④運用を開始した「ゼンラク酪農簿記（ZIRABO）」や補助システムを活用することで、記帳作業の更なる効率化・省力化を図り、酪農会計初心者でも容易に会計管理を行える手法を確立する。

⑤地域の支援組織等との連携を図ることと、DMSシステムの認知度を高め、より多くの生産者が経営管理を行える体制を構築する。

#### (4) 後継者の確保・育成

①「全酪アカデミー」の賛助会員並びに特別会員の輪を広げ、新規就農に加え新たに設立した3コース（親元就農養成コース・ハーズマン（牧場管理責任者）養成コース・酪農ヘルパー養成コース）の内容の充実を図る。また、酪農ヘルパー全国協会、シャイン

コースト株式会社、教育機関などとの連携、酪農関連全国組織としての知識・技術の提供を行うことで「将来の酪農の担い手」を育成して酪農・酪農に繋げる。

②全国酪農青年女性会議が行う後継者相互の情報交換・研修等の活動に対して支援を行うとともに、理解醸成活動や酪農現場における青年・女性の活躍を広く発信する。また、各地域における酪農青年女性会議の構成員減少等に対応し、酪農発表大会の開催方法についても協議・検討を進める。さらに、同会議と畜産系学生や新規就農希望者との交流や研修会などの交流の場を作ること、酪農就農への意欲高揚につなげる。

### ⑤ 組織強化の取り組み

①会員の要望に則した本会職員や組織整備推進アドバイザーによる助言、情報提供等を行うことにより、現状に則した会員組合の組織整備を支援する。

②会員理事、監事、職員を対象とした実践的研修会を開催し、交流の場を設ける。酪農専門農協としての組織機能強化や会員農協組織の経営安定・強化に関する事項について情報提供を行う。

③酪農関連全国組織に求められる目的を効果的に果たすため、組織機能の整理・統合について全国酪農協会と立ち上げた事業協力・組織効率化協議会により検討、実施する。

### ⑥ 政策の提言

持続可能な酪農生産基盤の構築につながる政策（各種補助事業、制度など）について、関係団体との定期的な協議や、酪政連の地域ブロック協議会との連携を強化し、提言を行う。

## 2 酪農経営の持続力向上

### ① 哺育飼料の供給体制の更なる強化

①哺育飼料に関する情報収集及び国内外の大学等の外部研究機関と共同研究を継続実施し、生産現場での子牛の事故率低減や将来の泌乳能力の向上に寄与する技術の開発・普及に取り組む。

②研究開発、製品改良、製造、品質管理から供給まで各関連部署が一体となり、供給量の拡大を図る。製造と品質管理については、日本ミルククリブレイサーと継続的に連携する。

③供給量の拡大に向けて、供給販路の開拓ならびに新たな機能性や価値を付加した製品の検討を進め具体化する。

④購買事業に関わる職員の哺育に関する知識の底上げを図るため、階層別に定期的な研修会を継続開催し、技術や知見の継承を進める。また、職員への哺育飼料への意識強化のため、十分な知識を習得した職員への内部認証制度の運用を継続する。

### ② 生産性の持続的な向上に貢献する高品質な生産資材の供給

①会員と連携した指導購買の一層の拡充を図り、変化の激しい酪農情勢下における会員及び酪農家のニーズに沿った提案をすることで、直営製品供給量の維持・拡大を図る。また、全酪連A A体系（アミノ酸体系）の刷新を軸に生産性の向上に資する製品や飼養管理の提案を強化する。

②飼料添加物などの生産資材について、各関連部署及び各仕入先との連携を一層強化し、会員及び酪農家のニーズに合った製品や生乳生産の向上、生産現場の省力化に資する製品の提案により、供給量の拡大を図る。また、環境負荷に配慮した技術情報や生産現場が直面する課題に関する情報の収集や発信を強化し、将来の製品供給の可能性を探る。自給飼料関連については国や行政の施策や補助事業の動向を注視しながら、生

産現場における種子、肥料、その他生産資材の提案機会を増やす。

③粗飼料事業について、ゼン・トレイディングと一体となり、海外サプライヤーや海運会社との連携を強化し、流通コストの低減と安定供給に努める。また、変化が激しく不安定な産地情勢においても、会員及び酪農家とのコミュニケーションをより一層強化し、ニーズにあった粗飼料を供給する。国内の需給動向を的確に捉え、たうえで在庫管理を徹底し、コスト削減に努める。

④世界各国の産地情報を的確にとらえながら飼料原料の安定確保と在庫管理に努める。全酪連グループ飼料工場との連携の下、適切な設備更新を行うとともに、各工場で設定したGMPに基づき、安全・安心で高品質な製品の安定供給に努める。直営製品及び受託製品の製造数量の確保に努め製造コストの低減を図るとともに、飼料工場の将来的な運営体制について、他社等との連携も含め検討を行う。

### ③ 生産性向上に向けた人身体制の構築

①多様化している生産現場の要望にも対応するべく、階層別・分野別の教育プログラムを、関係各所との連携の上、WEB等による合理的な方法と

生産現場の課題解決につながる実地研修を併せて実施することで、受講環境の充実を図るとともに、幅広い情報提供に努める。

②購買事業と畜産事業が一体となり、多様な視点から会員・生産者の生産性、効率性を高めるサポートを行い、生産者の意欲を支えることができる人材の育成を継続する。

**(4) 酪農経営における労働生産性の向上**

①搾乳ロボットおよび哺乳ロボットに関する技術普及に対応するために、SCFや関係機関とともに定期的な情報共有を行い、生産現場へ還元できる体制を強化する。

②先進技術（IT/ICT/IoT）を用いた製品の開発協力や生産現場へのサービスの普及を支援する仕組みを構築する。

**(5) 持続的な酪農経営に寄与する研究開発**

①酪農技術研究所をSCFの隣接地に移転し、研究体制の更なる充実を図る。また、国内外の研究機関との関係強化を継続し、新たな技術や情報を製品開発に繋げる。

②「全酪連酪農セミナー」をはじめ、各研修会により最新の生産技術情報を提供するとともに、生産性向上に向

けた製品の開発・供給と飼養管理技術の普及を図る。

③飼料分析の活用促進では、分析センターによるデータ集積を継続し、生産現場では分析データを活用した飼養管理技術の普及を図る。

**(6) シャインコーストファーム(SCF)との連携**

①SCFを中心として、関係機関と連携関係を構築する。

②行政機関、国の研究機関、民間企業、農業法人等と連携し復興牧場を活用した試験・研究を実施する。

③SCFと連携し、本会製品開発及び有益な研究データの集積に寄与できる体制を構築する。

**3. 酪農生産物の販売強化**

**(1) 全酪ブランド乳製品の改良・開発**

「全酪、ゴータチーズ」については、国産スターターの使用を進める等、全酪ブランド乳製品の商品開発及び販売推進により国産乳製品の販路拡大に貢献する。

**(2) 取扱乳製品の強化及び販売拡大**

自工場製品に加え会員乳業者等からの外部仕入品の取扱強化により業務用乳製品における安定供給体制を構築する。また、販売推進においても

会員乳業者や全酪フーズ等関係会社との一層の連携強化による販路ならびに事業拡大を図る。

**(3) 全国的な牛乳・乳製品消費拡大活動への貢献**

「牛乳でスマイルプロジェクト」メンバーとして中央団体や各関係組織と連携した様々な取り組みに参画するとともに、会員の牛乳・乳製品を中心として取り扱う「らくのうマルシェ」や自動販売機の展開などを通じ、国内の酪農家と消費生活者のつながりを深める牛乳・乳製品の需要拡大に貢献する。

**(4) 乳製品製造体制の維持・強化**

①FSC2000に基づく食品安全マネジメントシステムの更新及び運用を通じ、製造にかかわる人員の食品安全文化に対する意識の定着を図るとともに、現行の製造体制を維持・強化することと併せて、お客様へ安全安心な食品を提供する。

②現行設備老朽化の課題と工場更新の検討内容を精査したうえで、必要な補修ならびに設備投資を行い設備の維持管理と、効率化による生産性の向上を図る。

③北福岡工場ならびに各委託製造先との十分な連携による計画的な生産体制の構築・運用を図ることに加え、新

会社「らくのう乳業(株)」での仕組みについても各関係先と連携し準備を進める。

**(5) 生体牛及び食肉の取扱いの強化**

①酪農家で生産される初生子牛や肥育素牛については、会員と連携を強化し、より効率的な集畜体制を構築するとともに、肥育農家への安定供給を図る。また、酪農家が国産牛肉の生産を担っていることを消費者へアピールし、ストーリー性を持つて有利販売を図り、食肉事業の拡大に努める。

②畜産事業に関する本会職員の知識を深めるとともに、選畜技術や肥育技術、食肉業界の知識を有したスペシャリストを育成・適正な配置を行い、生体牛の取扱頭数の拡大に繋げる。

③物流問題が課題となる中、会員及び関係機関から情報収集し、効率的な集配体制の構築に取り組む。

**4. 組織運営の効率化と財務体質の充実**

**(1) 共通管理部門の最適化**

①これまでに構築した業務システムの定着を図るとともに、効率性と内部統制の面から業務体制の評価を行う。

②業務集約の進捗を踏まえ、将来的な組織体制の方向性を整理し、役割分担と人材配置の最適化に向けた検討を行う。

**(2) 本会職員の確保・育成**

①新卒採用の安定確保に向けた多様な取組と、中途採用の通年化を推進し、将来を担う人材を計画的かつ継続的に確保する。

②多様な働き方や休暇制度の活用を通じて、職員の個性と能力を発揮できる労働環境を整備し、意欲向上と定着を図る。

③階層別研修やEラーニングをはじめ体系的な教育研修を充実させ、自己啓発を支援する仕組みを整備し、職員の成長と組織力の向上を推進する。

**(3) 財務基盤の充実**

①全酪連グループ内の資金及び保有資産の効率的活用を推し進めるほか、上昇基調にある借入金利の圧縮に注力しつつ、必要な資金については安定的かつ適切な調達を図る。

②酪農環境の変化に対処していく上で、今後、必要となる設備投資や外部出資等の事業活動に備えるため、安定した収支の確保と財務基盤の充実に努める。

**(4) 基幹システム安定稼働**

メーカー保守が終了するデータウェアハウスシステムの更新、購買・販売システムの更新、統合認証システムの更新及び業務効率化に向けた情報インフラ整備を行う。

**5. ガバナンスの強化**

**(1) 内部統制機能の強化**

これまでに構築した業務基盤の定着を図り、職員の内部統制の意識を高めることで、業務の標準化と効率化を確実なものとする。

**(2) コンプライアンス経営の推進**

①コンプライアンス年間推進計画に則し、研修会等を通じて職員のコンプライアンスに関する意識の醸成を促すとともに、コンプライアンスに関するリスク・アセスメントを実施し、法令違反や不祥事の未然防止を図る。

②事業関連法規の制定・改正情報を収集し、遅滞なく関係部署に提供するとともに、適正な対応が行われるよう関係部署への助言等を行う。

**(3) 事業継続計画（BCP）の実効性向上**

「新型インフルエンザ対策と事業継続計画」及び「地震等防災対策と事業

継続計画」の内容について、最新の知見や実状を基に検証し、必要に応じて内容を改正する。

**(4) 品質保証システムの継続的改善**

①法令の改訂に併せて品質関連規定の内容を検証・整備し、工場が定めた品質管理システムの運用状況について、作業確認を中心に監査項目に組み込んで監査を行う。

また、品質監査の指摘事項に対する有効かつ継続性のある是正処置及び類似事項の再発防止策の指導、助言を行う。

②乳製品工場においてはHACCPシステムに基づいた衛生管理について、配合飼料工場においてはGMP適合認証取得後の運用について、関係部署を支援する。

③クレーム管理システムのデータを有効に活用し、是正措置の構築や、継続的な再発防止策の実施を支援する。

**(5) 内部監査機能の強化**

①専門的知識に基づいた堅実な自主検査・内部監査を実施するため、引き続き農業協同組合内部監査士の資格取得を推進する。

また、内部監査往査時等において、内部統制に関する勉強会を開催することにより、全酪連全体として管理意識の向上を図る。

②内部監査業務において、内部統制の有効性評価だけではなく、リスク評価の実施や業務効率化の視点からの助言（改善提案）にも積極的に取り組む。

**1 年度別売上高**

(単位：百万円)

| 部門 / 年度 | 令和7年度実績見込 | 令和8年度計画 |
|---------|-----------|---------|
| 酪農事業    | 8,343     | 7,686   |
| 購買事業    | 89,976    | 90,822  |
| 合計      | 98,319    | 98,508  |

(注) 科目ごとの金額について、百万円単位未満を四捨五入した数値を表記しているため、加減算値が合致しない場合がある。

**2 年度別経常利益**

(単位：百万円)

| 年 度  | 令和7年度実績見込 | 令和8年度計画 |
|------|-----------|---------|
| 経常利益 | 1,993     | 697     |

(注) 令和7年度見込には、棚卸評価替等の決算処理は含んでいない。

梅雨がくる  
前に行く

# 夏場の エサ管理

新緑がまぶしい季節となりました。爽やかな風が心地よいですが、牛にとってつらい高温多湿の夏は、もつまもなくです。

今年の夏はエルニーニョ現象が発生する可能性が例年より高いといわれていますが、2月に気象庁から発表された暖候期予報では、地球温暖化により気温が高い傾向と予想されています。猛暑か冷夏かどちらになるのでしょうか？どちらにせよ私たちは暑さに弱い牛が相手ですから、冷夏対策より暑さ対策がとれるよう、今から準備をしましょう。

## 暑さ対策もいろいろ

私たち人間は、ここ数年の猛暑に對して、水分・塩分の補給を心がけたり、エアコンの効いた涼しい場所ですぐ休憩したりと暑さ対策ができますが、当然、牛は自分で対策が取れません。牧場では「換気扇をまわす」、「エサの質を変える」、「重曹、酸化マグネシウム、ビタミンの増量」などの対策をすでにされていると思います。暑さ対策にいつも以上に重要

なエサですが、高温多湿のこの季節は品質トラブルが増加してしまう季節でもあります。「カビ・虫の発生」「飼料の固化」といったトラブルは、全体の7割が五月から十月に集中して発生しています。

## 夏場の飼料トラブル対策

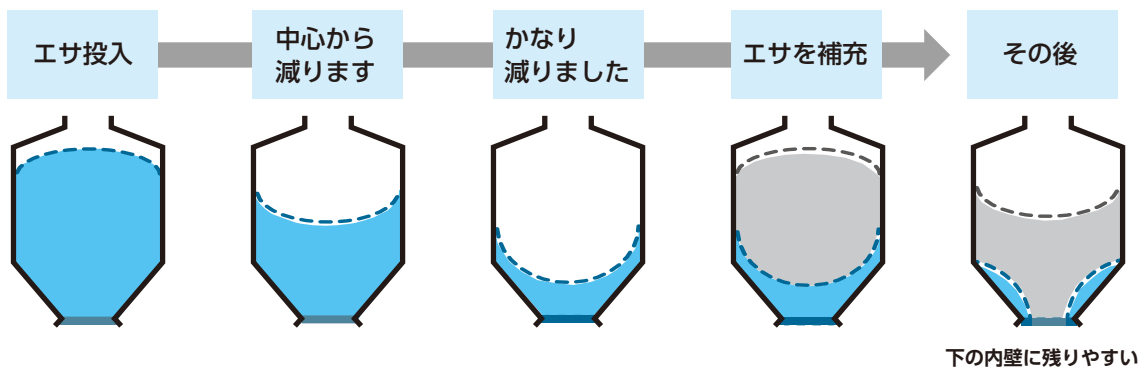
このようなトラブルの主な原因となるのは飼料の長期保管です。そのためには、飼料の在庫を適正に管理し、こまめな配送や先入れ先出しす

ることが肝心です。

先入れ先出しについて、紙袋は製造日の古い順に使い切ることで管理できますが、タンク保管の配合飼料については少し注意が必要です。タンクの構造上、流れにくい部分で飼料が停滞しやすく、長期保管されてしまうのです。タンク内の飼料は下のイメージ図のように減っていきます。定期的にタンク内を空にしたり清掃をして内壁に飼料が長期間残らないようにしましょう。清掃の実施目安は夏場で月1回です。今年の春は全国的に雨が多く、例年より湿気が多い年でした。梅雨に入ってからさらに湿気が増し、気温が高くなる前に、ぜひ実施をお願いします。



### ■タンク内の飼料の減り方 イメージ図



## 夏場対策の事例

牛にとって、梅雨～真夏～10月までの5カ月間は、高温・多湿や寒暖差によるストレスでとても過酷な時期です。

出来るだけストレスを減らして秋以降の調子キープにつなげましょう。

### 物流段階 製品温度を上げない工夫で品質低下を抑える

- 製品の温度が上がると品質低下が加速した事例があります。  
飼料引き取り後は可能な限り早く倉庫に入庫または牧場納品をお願い致します。

【対策例】 ウイング車で引き取り、当日荷下ろしができない場合、サイドパネルを少し開けて熱気や湿気を出す工夫をしている事例があります。製品が早く冷めて品質低下を抑えられます。

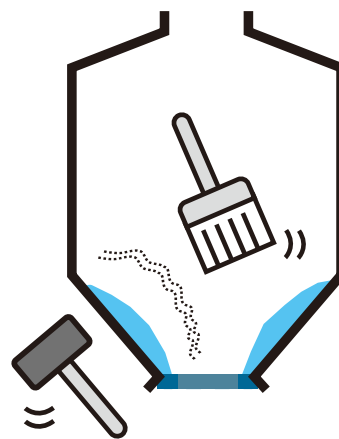
### タンクのエサ管理 清掃の実施でタンク内での停滞を防ぐ

- 毎年、タンク内停滞による品質トラブルが発生しております。  
夏場は月1回の清掃が効果的です。

【対策例】 梅雨明けにタンク内を空にする取り組みの実施でエサがタンク内で固まることが無くなったとの報告あります。

### 以前に比べて暑い日が増えていきます 梅雨の季節～10月まで要注意！

飼料タンク内での停滞を解消するため、  
投入前のエサ落としや清掃が必要です。  
(月1回)



- ★ サビ防止の為、金属部分は年1回必ず塗装してください。
- ★ ワイヤー金属部分がゆるんだ場合にはターンバックルを締めて下さい。  
(雨水の浸入防止)

# 東日本大震災から15年、福島県沿岸部に

# 大規模酪農施設

# シャインコーストファームが完成

東日本大震災から15年1か月となる2026年4月9日、福島県浪江町に大規模酪農施設「シャインコーストファーム（以下SCF）」の落成式が行われました。式には、吉田栄光浪江町長、山本啓介農林水産大臣政務官、山野謙復興庁事務次官、小貫薫福島県農林水産部長を含め、計66名の来賓の方々が参加しました。

SCFは、浪江町が福島再生加速化交付金（被災地域農業復興総合支援事業）を活用し敷地面積25ha、施設面4.7haの中に、作業の効率化と業者の負担軽減、周辺地域への配慮も含めた情報収集を徹底的に行い、全酪連の技術顧問陣からのアドバイスも取り入れた、GEA社の40ポイントのロータリーロボットDairy Pro Q 40 P、除糞ロボットBARN E、餌寄せロボットMOOV 2.0、哺乳ロボット・カーフレールなど、こだわり抜いた設備が導入されており、経産牛1,300頭（搾乳牛1,

100頭）、哺育牛180頭、育成牛800頭で総頭数は2,280頭、生乳生産量は13,000t/年間、堆肥は12,000t/年間、液肥は最大で20,000t/年間の発生が見込まれています。

SCFの開牧により、これまで被災地域では畜産業が衰退し、堆肥を入手するために輸送費をかけて遠方から購入していましたが、近隣から安価で安定的に堆肥や液肥を入手できるようになると耕種農家の方々から大きな期待をされています。また、担い手の確保が困難な農





▲ 左から  
 (株)大建設 田嶋慎也代表取締役社長、全酪連 隈部洋代表理事会長、山野謙復興庁事務次官、  
 浪江町議会 山本幸一郎議長、浪江町 吉田栄光町長、山本啓介農林水産大臣政務官、  
 福島県 小貫薫農林水産部長、福島県酪農業協同組合 岩谷宏常務理事、シャインコースト(株) 紺野宏代表取締役社長

地をSCFの飼料生産部門が自給飼料生産の担い手となることで、耕作放棄地の減少にも貢献できると期待されています。

これまで被災地域では、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震および、東京電力福島第一原発事故で多くの住民が避難を余儀なくされ、2017年に避難指示解除が開始されましたが、農地の地力は剥ぎ取り除染後に山砂が客土されたことによる地力低下が営農再開の大きな壁となっていました。

そこで、福島県酪農業協同組合、被災酪農家、全酪連が連携し、酪農業の復興を目指すとともに、耕畜連携により復興牧場で生産される堆肥・液肥によって除染で低下した地力を回復し、水稲・稲WCS、飼料用トウモロコシ等の土地利用型作物による営農再開面積の拡大を図り、持続可能な営農継続システムを確立することを目的に2023年、牧場運営会社「シャインコースト株式会社」を設立し、浪江町、被災地域、大規模酪農牧場連絡

協議会などの関係機関と連携しながらSCFの運営が行われていきます。

また、SCFでは新規就農希望者や酪農実習生、酪農後継者を対象とした長期的な研修・実習を行うことができる研修棟と宿泊棟を牧場内に設置しています。宿泊棟は1名用、2名用が各7室あり、最大で21名が長期的に滞在し、じっくりと酪農実習をすることが可能です。高校や大学の農場実習の場の提供、(一社)全酪アカデミーと連携した次世代の酪農分野の人材育成の研修の場としても役割を果たします。

また、この施設の道路を挟んで東側には、現在福島県矢吹町にある全酪連酪農技術研究所の研究開発部門がR8年度末に移転予定となっており、全酪連の製品開発だけでなく福島大学、東北大学を初めとして、多くの研究機関の研究フィールドとして活用され、大規模酪農施設でしかできない研究やビッグデータ収集の可能性が広がります。

# 見て歩紀

No. 395

農事組合法人細越牧場  
秋田県山本郡三種町

## 親子で目指す 地域に根差した酪農経営

### 地域の紹介

農事組合法人細越牧場は秋田県北西部、日本海に面した山本郡三種町に立地しています。

三種町は、白い砂浜が広がる海岸線と四季折々の表情を見せる田園風景が魅力の、豊かな自然と農業資源に恵まれた町です。

この町を代表する特産品が「じゅんさい」です。全国有数の生産地として知られ、つるりとした独特の食感と上品な味わいは多くの人に親しまれています。また、日本海沿いの砂丘地を活かして育てられるメロンは、強い甘み特徴で人気を集めています。さらに、「あきたこまち」をはじめとする米づくりや白ねぎ、大豆などの生産も盛んです。

近隣にはかつて存在した琵琶湖に次ぐ日本第2の面積を誇った広大な湖であり、大規模な干拓事業

で有名な八郎潟干拓地（大潟村）があります。八郎潟干拓地周辺は広大な農業用地として食料生産を支えるのみならず、多様な動植物が生息する重要なエリアとして知られています。



▲ 大潟村の菜の花ロード(取材時見ごろ)



秋田県山本郡三種町



▲ 左:細越真利雄さん(父) 中央:大紀さん(代表) 右:内田調査役(全酪連北東北事務所)



## 牧場の紹介

細越牧場は秋田やまもと農業協同組合に所属し、現在経産牛290頭を飼養管理しています。大潟村にて借地で81町の圃場を管理している他、近隣の稲作農家と協力して54町の水田で専用品種のイネWCSを栽培しています。労働力は代表の大紀



さん、ご両親の真利雄さんと敦子さん、従業員を8名雇用しています。

細越牧場は開拓地で、大紀さんの御祖父さんの代に畑作と酪農の兼業でスタートしました。一時酪農と畑作をやめ稲作のみの経営にシフトしましたが、減反政策の影響と働き者だった御祖母さんが意欲を持って余っていたことで、再びホルメスのストールを飼い始め酪農を再開したそうです。

総頭数15頭で経営を引き継いだ真利雄さんが徐々に50頭まで増頭し、農事組合法人細越牧場を設立。畜産があまり盛んでなかった当該地域において長期的に営農を続けていくことを考え更に規模拡大を決意。東日本大震災のあった平成21年に150頭分のフリーストール牛舎と堆肥舎を、後継者の大紀さんが戻られたことを受けて令和2年に同規模の牛舎をもう1棟新設し約300頭まで飼養頭数を拡大、秋田県で最も飼養頭数の多い酪農家となりました。

また、細越牧場は現在三種町内で唯一の酪農家となっており、堆肥の供給やもみ殻の受け入れなど、循環型農業を支える重要な役割を担っています。

飼養管理面での

一番の特徴は地域特性に合わせた自給粗飼料の有効活用にあります。搾乳牛については米どころらしく、全粗飼料中の4割程度の量を専用品種のイネWCSで賄っています。また、長年チモシーの作付けを行ってききましたが、飼料価格高騰後は試験的にアルファルファの生産にも取り組みました。アルファルファについては成分が高く夏枯れの心配がないものの反収が上がりやすく、作付け品目については引き続き検討している様です。

お父さんの真利雄さんは「手間とコストは牛が返してくれる」という考えで経営をされてきました。つなぎ牛舎で飼養管理していた時代からミキササーで調整したTMRの多回給



▲搾乳牛舎

餌や、乾乳用のパドック・フリーバーン牛舎の新設など、牛のためにできることは何でも取り組まれてきたとのこと。また、当時秋田県で一番にキャリロボを導入するなど、設備投資による省力化にも積極的に取り組まれてきました。

現在の牛舎には牛への負担軽減

を考えウオーターベッドや大型扇風機の導入、管理効率の改善のために Afimilk の搾乳・牛群管理システムを導入しています。

こうした取り組みが評価され、令和4年度ふるさと秋田農林水産大賞（担い手部門・経営体の部）と同時に農林水産大臣賞を受賞されました。

現在代表を務める大紀さんも真利雄さんに倣い経営を学んできました。

## 大紀さんの歩み

大紀さんは大学を卒業後臨床検査技師として病院に勤務していましたが、経営継承を決意し平成29年に就農しました。令和4年、真利雄さんが作業中に負傷し入院、急遽大紀さんが31歳で代表として細越牧場を経営していくことになりました。当時は規模拡大後間もない時期に酪農経営がまだ分からない状態での急な事業継承となり、歴史的な猛暑や飼料価格高騰、仔牛の価格暴落が重なり、非常に苦しい思いをされたとのこと

です。  
これまで農協を始めとする関係機関と相談しながら経営やお金の勉強をする一方で繁殖の改善や飼料パランスの見直しを行ってきました。ま

た、経営基盤の安定化を図るため後継牛頭数の増頭や圃場面積の拡大、作付け品目の検討を実施してきました。現在では牛群の成績もある程度納得のいくレベルまで持ち上げることができたとのこと。

大紀さんはこれまでを振り返り「分からないことが多い中で多くの人に助けをもらって。大きく情勢が変わったときには今までと同様の考えでは経営が難しく、様々な情報を取り入れて柔軟に対応するべきだと感じた」とおっしゃっていました。

真利雄さんは「これまででも難局にぶつかったとき協力してくれるパートナーがいて、誰かひとり欠ければ現在の細越牧場は無かった。皆に感謝している。大紀にもそういった機会があつてよかった」とおっしゃっていました。



▲ パーラー

大紀さんは八郎潟を始め地元の開拓の歴史に思い入れがあり、先人が拓いた土地に根差した経営をしたいという考えをお持ちです。今後は自給粗飼料の生産性を高めるとして生乳生産量や経営の安定性を高めることが目標とのことでした。また、雇用はやはり課題であり、自社

での採用強化と並行して全酪連のアカデミー事業等にも期待しているとのことでした。

## 最後に

秋田県では、令和7年12月末時点で生乳出荷戸数が55戸（二社・中央酪農会議 指定団体別出荷戸数より）となっており、減少傾向にあります。山が多い広大な面積に酪農家が点在しているため、秋田県の酪農家の皆さんや関係団体は苦労されることも多い様です。真利雄さんから「仲間が減ってしまう事は単純に悲しい。また、酪農家戸数が減少するにつれて『酪農は1戸だけではできない』ということ強く感じる」とお話があり、弊社に対しては「やむを得ない廃業は仕方が無いが、頑張りたいと思っている酪農家が1戸でも残っていけるよう、うちの牧場でやった様にフォロワーに努めて欲しい」と激励のお言葉を頂きました。頂いたお言葉を胸に、担当として生産現場のためにできることを努力していきたいと思えます。このたびはお忙しい中取材にご協力いただきありがとうございます。細越牧場様の今後のますますのご発展に期待しております。

(Y・U)

札幌支所発

# シンプルに高い所得率を目指す経営、経営戦略として改良を進める取組み ～第51回北海道酪農経営発表大会開催～

3月25日(水)、釧路センチュリーキャッスルホテルにおいて、北海道酪農青年女性会議主催、第51回酪農経営発表大会が開催され、全道より関係者合わせて約90名が参加しました。

今年度は経営部門で浜中町の牧野陽太氏、意見体験部門で中標津町の藤井季樹氏が発表されました。経営部門の牧野氏は、後継者として実家に就農し、周産期疾病を減らすという目標のもと経営改善を行います。一定の成果を出したものの将来を考えたときに自分にとって魅力的な経営ではないと判断。なんとそこから、理想の酪農を求めて新規就農されました。それから4年、思い描いた酪農を実現された牧野氏は、「牛を健康に飼う。シンプルな方法でやれば酪農は儲かるし休みもきちんと取れる、すごく良い仕事だということ伝えてい。」と話されました。意見体験部門の藤井氏も、後継者として実家に就農されました。実家の牛搾りにくい、改善したい、という思いから、改良に興味を持ちます。ご両親に反対されたこともありながら「遺伝改良は最高の先行投資」と考えを貫き取り組まれたところ、受胎率の向上、乳量の増加、乳成分の安定のほか、課題であった乳頭配置も改善し「牛、搾りやすくなったな」とご両親にも感謝されたそう。

扉をたたいた時から7年間をかけ、また現在も進行形で臨む経験を踏まえて、遺伝改良の重要性を力強く語りました。アプローチは異なるものの、目標に向かって工夫し実現されてきた2名の発表に会場からは大きな拍手が送られました。

大会と同日に開催された講演会には、酪農学園大学 教授 森田茂氏をお招きしました。森田氏は動物に配慮した管理システムを動物行動から構築することを研究テーマに、1985年から長きに渡り酪農学園大学で教鞭を執られ多くの酪農業に携わる学生を送りだして来られましたが、本年3月31日をもってご退官されました。最終講演となった当講演では、研究テーマである牛の習性や行動をもとにした施設の提案、身近となったAI技術の酪農場での利用、開かれた農場であることの重要性を講演され、「酪農はすそ野が広い産業。農家がそれぞれの得意分野を伸ばしていくことで持続的な発展につながる。」と呼びかけ、締めくくりました。

例年札幌市での開催を続けておりましたが、今年はより生産地に近い釧路市での開催としました。多くの生産者に参加いただくことができ、当大会について知っていただけたのではないかと思います。(T.H)



▲▶ 質疑応答では時間いっぱいまで会場から質問があがった



▲▶ 発表の様子。それぞれ短い時間ではもったいないほどの取組みが発表された



▲ 森田教授による講演 最終公演と言うこともあり、道外からも卒業生が参加された



▲ 発表者の牧野氏(左)・藤井氏(右)



▲ 地元の新聞にも掲載された 釧路新聞 2026年3月28日より

仙 台  
支所発

## 「第53回東北酪農青年女性会議酪農発表大会」開催 東北代表は 千葉進也 さん(宮城県)、山中涼穂さん(岩手県)

令和8年3月25日(水)、福島県福島市「穴原温泉吉川屋」にて、東北酪農青年女性会議(斎藤忠義委員長)主催の第53回酪農発表大会が、東北各地から約100名の酪友・関係者の参加にて開催されました。

今回の東北大会は、試みとして経営発表・意見体験発表の他に日々酪農に関する勉強に励んでいる学生の皆さんと酪農生産者との交流を目的とし、福島県立岩瀬農業高校のご協力を得て、学生さんによる発表を行いました。

経営の部では、みやぎの酪農青年部 千葉進也さんが『総合力で勝負する～地味を地道にしっかりと～』と題して発表されました。酪農未経験の30歳での就農後12年、様々な失敗を糧として酪農を基礎から学ぶ姿勢により「正しいことを疑い、自ら検証し経験する」ことを大切に営農に取り組んでいることなどを中心に発表されました。

続く意見体験の部では、岩中酪青年女性会議 山中涼穂さんが『21歳の私』と題して発表されました。

山中さんが生まれ育った「山中牧場」での生活の中で、子供の頃から酪農への興味がドンドン高まっていき、「好奇心」「行動力」から酪農を学ぶために地元を離れて就学したことや海外での長期実習の経験、そして将来の目標について発表されました。

学生発表については、福島県立岩瀬農業高校生物生産科2年鈴木詩織さんと同じく飛田望亜さんにより、日ごろの研究成果とした「繁殖成績と泌乳量の関係」について発表していただきました。社会情勢の酪農への影響から牛群全体の改良まで内容の範囲は広く、日々の実習を通して得られた研究内容について参加者一同関心する内容でした。

千葉さん、山中さんは7月に沖縄県那覇市で開催される全国大会へ出場します。

福島県立岩瀬農業高校ご関係者様のご協力につきましては、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。  
(N.J)



▲ 発表(千葉さん)



▲ 発表(山中さん)



▲ 委員長挨拶

### ▼ 委員から学生さんへの発表質問



### ▼ 質疑応答に対応する発表者



▲ 学生さんの発表(左・飛田さん、右・鈴木さん)

**福岡支所発**

**2年ぶり開催！  
「第22回オール九州ブラックアンドホワイトショー」  
「第49回熊本県ブラックアンドホワイトショー」**

3月22日(日)、熊本県家畜市場（熊本県菊池郡）において「第22回オール九州ブラックアンドホワイトショー」並びに「第49回熊本県ブラックアンドホワイトショー」が、2年ぶり（昨年はランピースキン病の影響で中止）に盛大に開催されました。

このショーは、九州ホルスタイン改良協議会が主催、熊本県乳牛改良同志会が共催し、九州各県の改良同志会・協議会が後援する形で、ホルスタイン種（系）牛の体型資質の改良向上を目指し、生産効率の高い牛群を増殖するとともに酪農経営の堅実な発展を期し、同志間の連帯親睦を深めることを目的に、この時期に開催されています。

この日は、九州ホルスタイン改良協議会・古川豪樹副会長の開会の言葉に始まり、主催者を代表して九

州ホルスタイン改良協議会・中村毅会長より挨拶を頂きました。来賓には、熊本県農林水産部生産経営局畜産課・審議員 下西儀政様と熊本県酪農業協同組合連合会・代表理事専務 大川清治様をお招きし、来賓紹介の際にはご挨拶を賜りました。

今回の審査員はアルタジャパン株式会社 細野淳 代表取締役をお願いし、総頭数 151 頭（13 部門）の審査にあたって頂きました。審査講評では九州のレベルの高さを評価頂き、オール九州ブラックアンドホワイトショーの審査をさせてもらった事に敬意を表されていました。

当日は午後から雨が降り寒くなりましたが、各部門の名誉賞、最高位決定時は寒さも吹き飛ばような熱気に溢れていました。 (N.A)

審査結果、入賞牛は次の通りとなりました。

|                              |                         |               |
|------------------------------|-------------------------|---------------|
| グランドチャンピオン<br>九州農政局長賞        | サクランド ハズイット ロエヴェ ET     | 前原直希（宮崎県）     |
| リザーブチャンピオン                   | ヒルアイランド ウイナーメードラムダレインボー | 岡嶋建一郎（大分県）    |
| ジュニアチャンピオン<br>九州農政局長賞 熊本県知事賞 | キ-S スト-マン エントリ-ET       | 松島太一（熊本県）     |
| リザーブジュニア<br>チャンピオン           | フオギーハイランドバリエントハイオクターン   | (有)池田農場（鹿児島県） |



▲九州ホルスタイン改良協議会 中村毅会長



▲審査員 細野淳氏

福岡  
支所発「第11回九州連合乳用種経産牛枝肉共励会」を  
開催！

3月7日(土)、熊本県菊池市七城町の(株)熊本畜産流通センターにおいて、福岡支所が事務局を務める、酪農生産事業推進研修会（会長：田北良 大分県酪協 酪農部次長）の主催で第11回九州連合乳用種経産牛枝肉共励会が開催されました。九州全県から合わせて24頭の牛が集まりました。

午前7時より審査が行われ、その結果、最優秀賞には開催地である熊本県の(株)水上牧場、枝肉重量385.1kg（生体重926kg、BMS No.3、BCS No.4、ロース芯面積43cm<sup>2</sup>、ばらの厚さ7.2cm）、等級C-3が選ばれました。

午前11時過ぎより田北会長の挨拶の後、セリ人

による活気ある掛け声とともにセリが始まり、賑やかな会場の中でセリが進行し、無事すべての出品牛が取引されました。その結果、平均価格は枝肉1kgあたり1,044円となり、この時期としては一般の取引価格よりも高い価格で取引されました。

セリ後には表彰式が行われ、(公社)日本食肉格付協会七城事業所 坂本和隆 所長より「瑕疵もなく生産者の日頃の取り組みが表れており、充実した枝肉ばかりであった」と審査講評がありました。参加者からは「経産牛の付加価値をつけることで収益向上に繋がれば経営の励みになる。今後も続けて開催して欲しい。」との要望が寄せられました。 (A.K)

| 最優秀賞 | 熊本県  | (有)水上牧場          |
|------|------|------------------|
| 優秀賞  | 長崎県  | 松井得泰             |
| 優秀賞  | 熊本県  | 土井信二             |
| 優良賞  | 宮崎県  | 日高三郎             |
| 優良賞  | 鹿児島県 | (株) Milkish farm |
| 優良賞  | 長崎県  | 松井得泰             |



▲ 最優秀賞を受賞された水上様(左)・酪農生産事業推進研究会 田北会長(右)

福岡  
支所発

## ☆祝☆「熊本県酪農業協同組合」 発足記念祝賀会

4月14日(火)メルパルク熊本(熊本市)にて、熊本県酪農業協同組合(山本健二 代表理事組合長)の発足記念祝賀会が開催されました。

熊本県内の酪農専門農協6組合が合併し、4月1日に新組合をスタート。

|            |
|------------|
| 熊本乳牛農業協同組合 |
| 玉名酪農業協同組合  |
| 鹿本酪農農業協同組合 |
| 大阿蘇酪農業協同組合 |
| 西阿蘇酪農業協同組合 |
| 火の国酪農業協同組合 |



熊本県酪農業協同組合

酪農を次代に引き継ぎ、体質強化・組合員相互の連携強化など、新たな協同の力を発揮することを目的に、各専門農協組合長をはじめ、熊本県酪農専門農協合併等組織整備推進協議会で協議をかさね、令和7年9月1日に「合併予備契約調印式」、同年11月7日に各組合の臨時総会で可決承認を経て、令和8年4月1日より新組合発足となりました。

祝賀会には、農林水産省や熊本県庁をはじめとした関係者約130名が出席され、新組合発足協議会会長

を務められた山田政晴 理事(旧西阿蘇酪 組合長)の開会挨拶に続き、来賓挨拶では熊本県農林水産部生産経営局畜産課 米森敬悟 課長、JA 熊本中央会 宮本隆幸 代表理事会長、熊本県酪農業協同組合連合会 隈部洋 会長が祝辞を述べられました。乾杯挨拶では、山本健二 新組合長(旧大阿蘇酪 組合長)より「多くの関係者の方々にご協力を頂き本日を迎えることができた。一県一酪農協は長年の悲願であり本日はその第一歩である。新組合になっても組合員ファーストで動いていく」と述べられ、牛乳で乾杯が行われました。

新しい組織の出発点として、明るい未来に向けて参加者とともに祝いし、終始和やかなムードでの祝宴となりました。

最後に大村英治 副組合長から「今後とも一県一酪農協へ向けて一丸となって邁進していく」との力強い言葉があり閉会しました。

熊本県の生乳生産の約三分の一を占める大きな組織がスタートすることで、関係者間の強力な連帯と生産基盤の強靱化が行われることとなります。全酪連組織としてもより柔軟な支援が行えるようにと身が引き締まる思いとなりました。(M.K)



▲ 左から、熊本県酪農業協同組合 隈部洋 会長理事 山本健二 代表理事組合長 大村英治 副組合長 山田政晴 理事  
坂本保男 理事 中原達哉 理事 宮本晴喜 代表監事 古閑与志一 監事

福岡  
支所発霧島ビーフ農業協同組合  
「組合創立40周年記念祝賀会」開催

3月30日(月)、宮崎小林カントリークラブ（宮崎県小林市）にて、霧島ビーフ農業協同組合（大丸米蔵代表理事組合長）の組合創立40周年記念祝賀会が開催されました。



▲ 大丸米蔵 代表理事組合長

宮原義久小林市長をはじめ関係者約70名が出席され、大丸勝弘専務理事の開会挨拶に続き、組合長より「組合創立から40周年という節目の年を迎えることができました。こ

こにいらっしゃる関係者はもちろん、生産者の努力の賜物だ。」との主催者挨拶がありました。

霧島ビーフ農業協同組合が、肉牛生産に特化した「専門農協」として歩み続けた40年を参加者とともにお祝いし、終始和やかなムードでの祝宴となりました。

最後に中村大輝代表監事から「50年、100年と霧島ビーフ農協、生産者が繁栄していくよう今後とも関係者皆様のご支援を宜しく願います。」との力強い言葉があり閉会しました。（F.K）



## 原稿募集

## 「酪農トピックス」では皆様からの記事を募集しております

共進会、B&W、酪農祭り、親睦スポーツ大会といった催事情報から組合住所の変更や移転等案内情報、そして直営店情報や組合の自慢情報まで、酪農トピックスでは会員の皆様からの原稿を募集しております。本コーナーは会員の皆様の情報交換の場です。ぜひご活用ください。

送付先 皆様のお近くにありますが本会支所までご送付・ご連絡ください。

## ■札幌支所

〒060-0003  
札幌市中央区北3条西7丁目1 酪農センター5階  
tel. 011-241-0765

## ■仙台支所

〒980-0014  
仙台市青葉区本町2-10-28 カメイ仙台グリーンシティ8階  
tel. 022-221-5381

## ■東京支所

〒151-0053  
東京都渋谷区代々木1-37-2 酪農会館4階  
tel. 03-5931-8011

## ■名古屋支所

〒460-0008  
名古屋市中区栄1-16-6 名古屋三蔵ビル3階  
tel. 052-209-5611

## ■大阪支所

〒532-0011  
大阪市淀川区西中島5-14-10 新大阪トヨタビル6階  
tel. 06-6305-4196

## ■福岡支所

〒812-0016  
福岡市博多区博多駅南1-2-15 事務機ビル7階  
tel. 092-431-8111

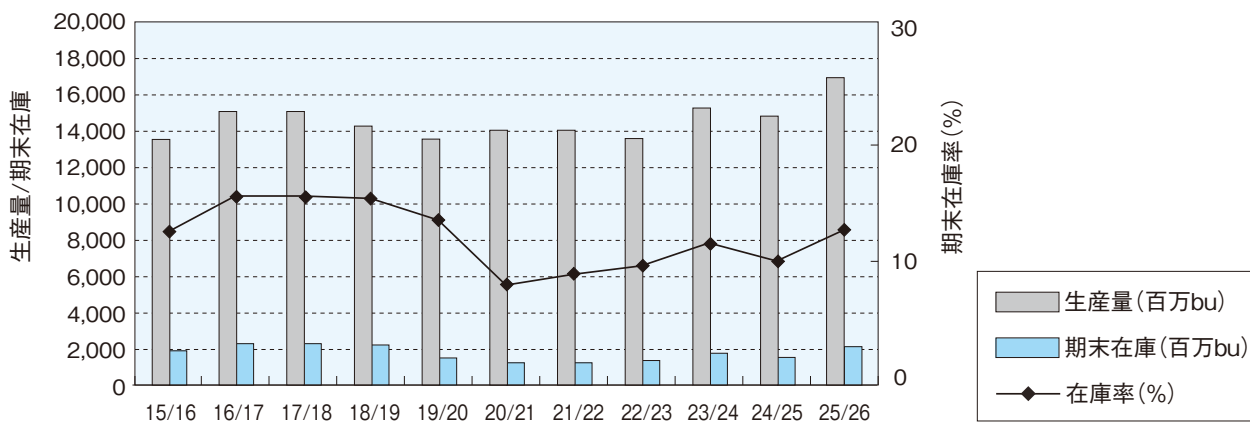


# 原料情勢

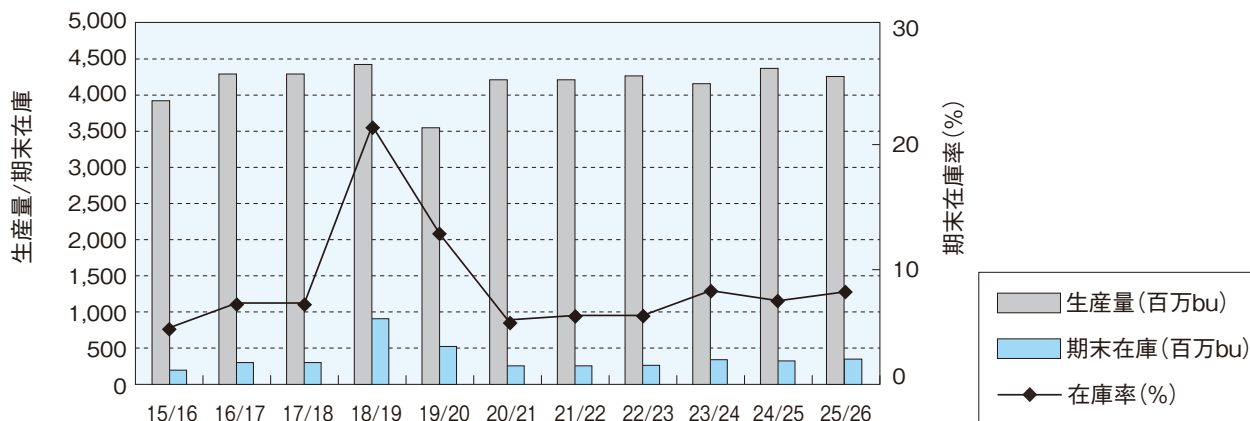
令和8年4月

|                                   |   | 24/25年産    | 25/26年産    |
|-----------------------------------|---|------------|------------|
| 4月9日発表<br>米国農務省<br>トウモロコシ<br>需給予想 | 作付面積(百万エーカー)  | 90.9       | 98.8       |
|                                   | 単収(ブッシェル/エーカー)  | 179.3      | 186.5      |
|                                   | 生産量(ブッシェル)  | 166億7,700万 | 185億9,700万 |
|                                   | 需要量(ブッシェル)  | 151億2,600万 | 164億7,000万 |
|                                   | 期末在庫(ブッシェル)   | 15億5,100万  | 21億2,700万  |
|                                   | 在庫率   | 10.25%     | 12.91%     |
| トウモロコシ<br>相場動向                    | 需給予想について、全ての項目において前月比据置となった。シカゴ定期は、中東情勢悪化に伴う原油価格の動向に連動し、上下を繰り返す展開となっている。原油高は相場の下支え要因である一方、世界的な供給環境は安定していることから、当面は中東情勢を注視しつつ価格水準を見極める展開が続く見通し。米国産は4月より作付が開始されており、足元では温暖かつ湿潤な天候が継続する見込みである。 |            |            |
| 大豆粕<br>相場動向                       | シカゴ定期は高値で安定している。更に中東情勢の影響から海上運賃が高騰しており、為替も円安傾向が継続していることから、輸入大豆粕は前期対比で堅調に推移している。国内大豆粕も輸入と同様に値を上げており、厳しい環境が継続している。  |            |            |
| 糖糠類                               | 【一般フスマ】 発生は引き続き順調に推移する見通し。需要についてもグルテンフィードの代替として堅調であり需給バランスは取れてきている。一時期在庫が少ない時期もあったが需給は現時点ではやや締まり気味といった状況となっている。   |            |            |
|                                   | 【グルテンフィード】 生産が多い時期に入ってきたこともあって、需給はやや緩んできている。輸入品も一定量は入船すると思われ、受渡には問題はない見込。   |            |            |
| 海上運賃                              | 海上運賃は、中東情勢の悪化を背景とした原油高の継続により、高水準を維持している。また、日本での船舶給油制限により韓国・中国といった近隣国での給油が必要となり、追加コストが運賃に転嫁されている状況。中東情勢の不透明感が続く中、運賃は弱含みに転じにくく、当面は高値圏での推移が見込まれる。  |            |            |

### 米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



### 米国産大豆生産量と期末在庫の推移





# 輸入粗飼料の情勢

令和8年4月

|                           |   |
|---------------------------|---|
| 海運情勢                      | 北米西海岸航路においては、ゴールデンウィーク前の需要増加に伴い船腹が逼迫しており、入船スケジュールの変更や遅延も散見されております。海上運賃については、大手船会社を中心に緊急燃料サーチャージ (Emergency Fuel Surcharge : EFS) の導入が相次いで発表されております。これは中東情勢の悪化により原油価格が上昇、船舶燃料についても短期間で大幅に上昇していることが影響しております。  |
| 米国産<br>ビートパルプ             | 25年産ビートパルプの生産は終了しております。米国産ビートパルプペレットは、ヨーロッパやメキシコからの需要も強くなっている中で、生産量は減少が見込まれております。エジプト産やヨーロッパ産のビートパルプも値上がりしているため、米国産ビートパルプペレットの価格は今後も底堅く推移すると予想されております。  |
| アルファルファ                   | <p>現在、ワシントン州コロンビアベースンや、オレゴン州クラマスフォールズでは、26年産の生産開始を待つ段階となっております。米国内のアルファルファ生産農家は近年の取引価格低迷を受け、作付意欲は低くなっております。2月の産地における気候は中南部を中心に気温が高くなっており、山間部では積雪量が平年を下回っています。このような状況が今後も続いた場合、水不足が懸念されアルファルファの生産量に影響を及ぼす可能性があります。</p> <div data-bbox="1037 571 1469 790" style="float: right; border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p>アメリカ合衆国:<br/>2月の平均気温 分布図<br/>出典:<br/>National Oceanic<br/>and Atmospheric<br/>Administration<br/>(アメリカ海洋大気庁)</p> </div> |
| 米国産チモシー                   | ワシントン州コロンビアベースンでは、チモシーは順調に生育しています。エレンズバーグでは一部圃場において洪水被害があったものの、現時点で大きな影響は確認されておりません。アイダホ州では十分な積雪が観測されており、土壌水分の確保が期待されています。  |
| カナダ産<br>チモシー              | 主要産地であるアルバータ州南部（灌漑地域）では、25年産の1番刈りは昨年8月下旬に終了しており、収穫期に断続的な降雨が続いた影響から刈遅れが散見されました。その結果、上級品の発生は引き続き限定的な状況となっております。2番刈りについても同様に良品の供給は限られています。また、アルバータ州中部（非灌漑地域）においても25年産の収穫は完了しており、収穫期の降雨の影響により中級品以下の比率が高く、全体として品質のばらつきが見られる状況に変わりはありません。   |
| スーダングラス                   | 26年産のスーダングラスの作付面積は前年から減少する見込みです。産地での生産コストが上昇する中、生産農家が十分な利益を得られないことが作付面積減少の要因となっております。今年は気温上昇が早く、一部圃場では既に播種が開始されており、収穫時期が前倒しになる可能性が高くなっております。  |
| クレイングラス                   | <p><b>クレインは全酪連の登録商標です。</b></p> <p>26年産のクレイングラス作付面積は前年から増加する見込みです。他作物と比較して収益性が高いことに加え、日本・韓国の需要が堅調であること、さらに主産地であるインペリアルバレーにおいて、砂糖大根工場が閉鎖したことによるクレイングラスへの転作も一部で発生していることが主な要因となっております。</p>  |
| バミューダ                     | バミューダについて、種子相場が好調であり、韓国向け需要も高いことから、26年産の作付面積は前年並みになると予想されております。しかしながら、バミューダは主に種子採取を目的として生産される作物で、バミューダヘイの生産は中東情勢の悪化に伴う燃料費・肥料費の高騰により生産コストと収益性が見合わない状況となっております。このため、生産量は前年同様の水準にとどまると見込まれております。   |
| ストロー類                     | 25年産オレゴン産ストローは、品質面では概ね例年並みを維持しております。一方、生育期における降雨不足の影響により、単収および総収穫量は例年比15～30%減少いたしました。26年産の収穫は8月頃より開始される見込みです。ただし供給がタイトな状況が想定されるため、収穫初期においては生産者の売り控えが予想され、少なくとも10月頃までは需給逼迫が継続することが予想されております。   |
| 欧州産粗飼料                    | 欧州産の輸出主要国であるスペインでは25年産の収穫が終了しております。昨年はEU乾草脱水飼料作物キャンペーンの一環として、日本の輸入業者を対象としたヨーロッパへの視察研修会が実施されました。今年は5月下旬に東京と北海道で「EU乾燥脱水飼料作物に関するセミナーおよびワークショップ」が開催が予定されております。  |
| 豪州産<br>オーツヘイ・<br>ウィートストロー | 25年産オーツヘイの収穫作業が完了しております。西豪州では、生育期の天候が概ね安定していたことに加え、降雨前に収穫を終えられた圃場が多く、全体として外観品質の良いロットが比較的豊富に確保されました。一方、南豪州および東豪州沿岸部では収穫期の降雨被害により低級品の発生が目立ちました。東豪州内陸部では乾燥が順調に進んだことで上級品の確保も進みましたが、地域間で品質のばらつきが見られる結果となりました。また、豪ドル高により生産コストが上昇しているため、輸出価格は上昇傾向にあります。  |

※粗飼料情勢の全文は弊会ホームページに掲載しています。

# 作品募集のお知らせ

第52回

## らくのうこどもギャラリー

### ① 募集規定

- (1)酪農を中心とした題材の図画（大きさ、技法は自由）
- (2)自作で未発表のものに限ります。
- (3)作品には、**題名・住所・氏名・振り仮名・年齢・学校名・学年・保護者名を必ず記載してください。また、酪農家の子弟については保護者の所属組合名を記載してください。**
- (4)作品返却を希望される方は応募時に返却希望の旨を申し出てください。

### ② 応募資格

4歳から中学生までの酪農家の子弟、および酪農に関心のある一般のお子さん。

### ③ 締切日

令和8年5月29日(金) (必着)  
または、各地域会議締切日に準ずる。

### ④ 提出先

下記「提出先一覧」中の最寄りの酪農青年女性会議事務局宛に提出してください。

### ⑤ 審査結果の発表

「第53回全国酪農青年女性酪農発表大会」の発表要旨、および全酪連会報7月号に審査結果を掲載いたします。

### ⑥ 褒賞

- ・特選 1点
- ・入選 4点
- ・秀作 若干
- ・ファミリー賞 若干  
(牛とのふれあいなど、ほのぼのとした雰囲気を持つ作品に贈られます)
- ・あすなる賞 若干  
(小学校入学以前の方の優秀作品に贈られます)

◎入賞者には記念品を贈呈いたします。

◎図画の優秀作品は、作者の顔写真・審査講評と共に「全酪連会報」の最終ページに掲載します。



第51回 特選  
「うしさん」  
村上陽香さん

第16回

## 酪農いきいきフォトコンテスト

全国酪農青年女性会議では、酪農家の生活や牛乳の生産現場をより鮮明に消費者に伝えていくことを目的に、「酪農いきいきフォトコンテスト」を実施します。

つきましては、下記のとおり作品を募集しますので、ふるってご応募いただきますようお願いいたします。

### ① テーマ

- (1)「乳牛のいる風景」
- (2)「酪農作業風景」

※いずれも、酪農家がいきいきと牛乳生産に励む様子や、安心安全な牛乳生産のため懸命に仕事に取り組む姿勢が感じられるようなもの。

### ② 募集規定

- (1)写真は可能な限りデータで提出してください。
- (2)自作で未発表のものに限ります。
- (3)作品には、**題名・氏名・振り仮名・住所・所属組合名を必ず記載してください。**

(4)応募点数：お1人様 1作品のみ

### ③ 応募資格

酪農家

### ④ 締切日

令和8年6月22日(月) (必着)  
または、各地域会議締切日に準ずる。

### ⑤ 提出先

下記「提出先一覧」中の最寄りの酪農青年女性会議事務局宛に提出してください。



第15回 特選  
「子宮捻転お産中 がんばれ～牛さん」  
吉田明美氏 撮影

または、下記応募フォームからもご応募可能です。

→<https://form.run/@zen-rakuseijo-isrslv40YR7rip9DTG2w>



### ⑥ 審査方法

応募作品を「第53回全国酪農青年女性酪農発表大会」の会場内に掲載し、大会参加者の投票による審査を行います。

※応募多数の場合は事務局による予備審査を行います。

### ⑦ 審査結果の発表

- (1)「全酪連会報」にて発表します。
- (2)「全酪連会報」の表紙に使用します。(号数未定)

### ⑧ 褒賞

- ・特選 1点
  - ・入選 若干
- ◎入賞者には賞品を贈呈いたします。  
◎提出していただいた作品の返却はいたしません。  
◎応募していただいた作品は、全酪連会報およびカレンダーへの掲載を含め、今後各地での牛乳消費拡大活動(「父の日に牛乳を贈ろう!」キャンペーン含む)等で使用することがありますのでご了承ください。

提出先一覧

#### ●北海道酪農青年女性会議

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目1  
酪農センター5階 全酪連札幌支所内  
TEL 011-241-0765

#### ●東北酪農青年女性会議

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町  
2丁目10番28号 カメイ仙台グリーンシティ8階  
TEL 022-221-5381

#### ●関東甲信越酪農青年女性会議

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-37-2  
酪農会館 全酪連東京支所内  
TEL 03-5931-8011

#### ●中部酪農青年女性会議

〒460-0008 名古屋市中区栄1-16-6  
名古屋三蔵ビル3階 全酪連名古屋支所内  
TEL 052-209-5611

#### ●西日本酪農青年女性会議

〒532-0011 大阪市淀川区西中島5-14-10  
新大阪トヨタビル6階 全酪連大阪支所内  
TEL 06-6305-4196

#### ●九州酪農青年女性会議

〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1-2-15  
事務機ビル7階 全酪連福岡支所内  
TEL 092-431-8111

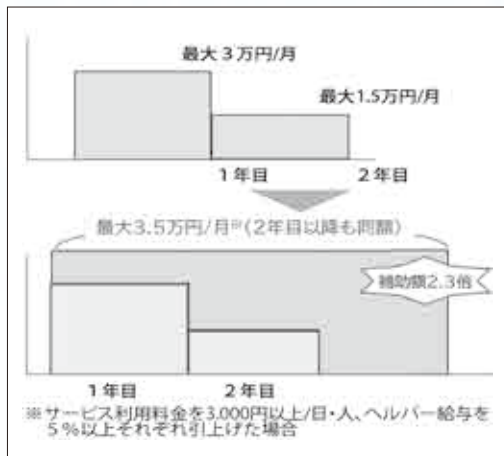


## 新人ヘルパー支援事業

待遇改善奨励金とともに確保・定着後押し  
受入協力で交付金、コンプラ遵守等条件

農畜産業振興機構は4月2日までに、酪農ヘルパー支援事業の実施要綱を公表。研修受入を通じて新人酪農ヘルパーの育成に協力する酪農家に対し、1人1日当たり8千円を交付する新メニュー（上限90日）において、受入時に遵守すべきコンプライアンス事項を整理したチェックシートへの記入条件を設けた。期間と単価を拡充した「酪農ヘルパー待遇改善奨励金」(図)などのメニューとともに、要員確保・定着化を後押しする。

今回、酪農ヘルパー支援事業において追加した生産者に協力を交付する新メニューでは、協力酪農家は受け入れに際し、事前に「新人酪農



ヘルパー受入チェックシート」への記入が必要となる。チェックシートは「ヘルパーに感謝の気持ちを持って接している」「ミスしても頭ごなしに叱らず、原因や改善策とともに検討するなどにより、ヘルパーの技術

向上を図る」等の確認事項を示す。

研修終了後にも再度記入し、利用組合等へ提出。チェックシートに基づき、利用組合等は研修を終えた酪農ヘルパーにヒアリング等を実施し、チェックシートの遵守状況を確認した上で協力を交付する。問題が認められた場合は、必要に応じて酪農家へ協力するよう求め、改善が図られた際に協力を支払う。

## Jミルク脱粉在庫削減対策

国内全生産者・乳業者拠出基金で実施  
需給ギャップ改善にはさらなる造成も

Jミルクの大貫陽一会長は3月17日に都内で開いた臨時総会の席上、脱脂粉乳とバター需給の跛行性は依然課題であり、脱粉在庫は令和8年度末で11万トンに達する予測であると改めて説明。その上で「令和7～8年度は酪農乳業需給変動対策特別事業（脱粉在庫削減対策事業）により合計2万5千トンの削減対策を実施することになった。それにより、令和8年度末には、8万5千トンまで削減される見通し。一方、現在の需給ギャップに対処するには『今の

農水省は「人間関係等を理由に3年以内で離職する若手ヘルパーも多く、大切に育てていく流れを作ることが大事。ただ、ヘルパーの生命や安全を守る観点からも、語気を強めざるを得ない場面もある。長く続けてもらえるよう、ハラスメントの概念も意識し、酪農ヘルパーが育つ、魅力ある職場づくりにつながれば」としている。

基金規模では不十分」という声もある。さらなる在庫削減に向けて検討を加速し、スピード感を持つて必要な対応を講じるべく、検証・議論を進めていく」との考えを示した。

令和7年度に新設した特別事業は、大幅な需給変動時の備えとして、国内全ての生産者・乳業者の拠出により基金造成し、実施するもの。年間20億円程度、7年間で約155億円の造成を目標としている。

(4月1日号)

## 農水省・家畜衛生部会

### ランピースキン病を法定伝染病に追加 防疫官への権限付与で防疫体制強化

農水省は3月27日、第78回家畜衛生部会をオンライン併用で開催。3月24日に閣議決定し、特別国会へ提出した家畜伝染病予防法改正案について議論した。酪農関係では、昨年夏の政令施行により、時限的に法定伝染病並みの措置を講じることが可能となっているランピースキン病 (Lumpy skin disease) について、法定伝染病に追加する方針を改めて

示した。継続して法的強制力のある防疫対応が講じられるよう図る。また、海外から違法に持ち込まれた輸入畜産物への対応強化の方針についても説明。▽輸入禁止品の販売等を禁止▽家畜防疫官に対する外国食料店等への立入検査および輸入禁止品の廃棄権限等の付与により、国内防疫と輸入検疫体制の強化を図る。  
(4月10日号)

## 農水省

### 令和8年度加工原料乳交付対象数量 指定団体等延べ61事業者に325万トン配分

農水省は4月1日までに、加工原料乳生産者補給金制度における令和8年度の交付対象数量(旧限度数量)325万トンを延べ61事業者に配分。数量は前年度と変更はないが、事業者数は2者減少した。一方、指定団体や生乳流通事業者等の第1号対象事業者として、原田乳業の

関連子会社である(株)SV良品開発(新潟県燕市)が新たに対象事業者となった。  
指定団体等の生乳を集めて乳業に販売する「第1号対象事業者」は、前年度より1事業者増の15事業者で、389トン増の324万6497トン(トン以下四捨五入、以下同)。この

うち、指定団体以外の事業者は、サツクラ農協、カネカ食品(株)、富士乳業(株)、(株)MMJ、(株)SV商品開発の5者。

このほか、乳業に直接生乳を販売す

る酪農家である「第2号対象事業者」は、前年度同の22事業者で2269トン。乳製品を加工販売する酪農家である「第3号対象事業者」は、27事業者で1235トン。(4月10日号)

#### ■令和8年度の各事業者の交付対象数量

1 第1号対象事業者 15事業者  
合計 3,246,496.9 トン

| 事業者名            | 交付対象数量        |
|-----------------|---------------|
| ホクレン農業協同組合連合会   | 2,934,195.9トン |
| サツクラ農業協同組合      | 3,850.3トン     |
| カネカ食品株式会社       | 797.3トン       |
| 富士乳業株式会社        | 11,256.4トン    |
| 株式会社MMJ         | 54.4トン        |
| 株式会社SV良品開発      | 616.1トン       |
| 東北生乳販売農業協同組合連合会 | 60,698.4トン    |
| 関東生乳販売農業協同組合連合会 | 115,221.2トン   |
| 北陸酪農業協同組合連合会    | 1,397.4トン     |
| 東海酪農業協同組合連合会    | 15,976.6トン    |
| 近畿生乳販売農業協同組合連合会 | 708.5トン       |
| 中国生乳販売農業協同組合連合会 | 19,338.4トン    |
| 四国生乳販売農業協同組合連合会 | 2,983.3トン     |
| 九州生乳販売農業協同組合連合会 | 79,279.4トン    |
| 沖縄県酪農業協同組合      | 123.3トン       |

2 第2号対象事業者 22事業者 合計 2,268.6 トン  
3 第3号対象事業者 27事業者 合計 1,234.5 トン

## 全酪新報

- 人が牛乳を必要とし、牛肉を必要とし、緑を必要とする限り、酪農は誇り高い永久の仕事です。
- 明日へ向かって前進する酪農界の動きを全酪新報は正確に報道します。時に怒りの声を、時に喜びの声を…幅広くお伝えします。
- ご家族でご愛読いただける酪農専門紙です。
- 毎月1日、10日、20日発行、年間購読料は6,600円(税込・送料込)です。
- お支払(請求書到着後)は、郵便振替、銀行振込、クレジットカード決済がご利用いただけます。
- 見本紙ご希望の方はお申し出下さい。無料です。  
(見本紙にバックナンバーは含まれません)

全酪新報/  
購読お申込フォーム



一般社団法人 **全国酪農協会**

電話 03 (3370) 7213

www.rakunou.org



第53回

# 全国酪農青年女性 酪農発表大会

in  
沖縄

令和8年

7/9 木  
10 金

## 日程

7月9日 木

13:00~13:45 開会式  
13:45~15:45 酪農経営発表  
16:00~17:55 酪農意見・体験発表  
19:30~22:30 懇親会

7月10日 金

9:00~10:30 審査講評・表彰式・閉会式

## 大会会場・アクセス

### 会場

「ロワジュールホテル那覇」

〒900-0036

沖縄県那覇市西 3-2-1

Tel 098-868-2222 (自動ガイダンス)



### アクセス

それぞれ那覇空港より

- ゆいレールの場合  
旭橋駅から徒歩約15分
- 車の場合  
うみそらトンネル経由で  
約7分。



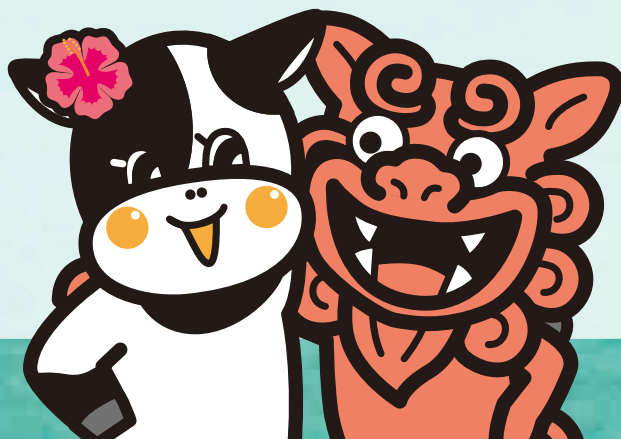
## 大会参加費

1名 **5,000円** (大会のみ)

1名 **20,000円** (大会・懇親会)

※懇親会は3時間です。

※宿泊につきましては、各地域会議事務局にお問い合わせください。



# 乳牛産地情報

令和8年5月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765  
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232  
 根室駐在員事務所 TEL 01537-6-1877  
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051  
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇐……やや弱含み ↓……弱含み

| 事務所  | 畜種           | 相場(万円) | 価格状況 | 管内状況   |
|------|--------------|--------|------|--|
| 札幌管内 | 育成牛(10-12月令) | 30~40  | ↓    | 札幌管内における4月中旬までの生乳生産量の前年比は、函館管内が月計95.4%、苫小牧管内が月計96.2%となっております。5月の初妊牛につきましては、7月下旬~8月中旬の分娩が中心となります。夏分娩中心の取引となることから、価格は軟調に推移するものと見込まれます。腹別の資源状況については、雌雄選別腹・F1腹ともに確保できる状況です。経産牛については、中クラス以上は初妊牛と同等の価格で取引されており、相場は弱含みで推移するものと見込まれます。当管内の庭先購買につきましては、高能力牛が多い地域であることから、優良血統および高能力牛のご案内が可能です。   |
|      | 初妊牛          | 60~70  | ↓    |  |
|      | 経産牛          | 45~55  | ↓    |  |
| 釧路管内 | 育成牛(10-12月令) | 25~35  | ↓    | 根釧管内における4月中旬までの生乳生産量の前年比は、釧路管内が月計99.0%、中標津管内が月計99.3%となっております。5月の初妊牛につきましては、7月下旬~8月中旬の分娩が中心となります。夏分娩への移行に伴い需要が落ち込むことから、価格は軟調に推移するものと見込まれます。腹別の価格動向については、F1腹の引き合いが強いことから、F1腹および和牛受精卵移植腹はやや堅調に推移する一方、雌雄選別腹については上物の引き合いは強いものの、全体としては軟調に推移するものと見込まれます。経産牛については、即戦力となる牛は先月に引き続き高値で推移する見込みです。育成牛については、夏生まれの出回りが増加することから、全体として弱含みで推移するものと見込まれます。 |
|      | 初妊牛          | 60~70  | ↓    |  |
|      | 経産牛          | 45~55  | ↓    |  |
| 帯広管内 | 育成牛(10-12月令) | 30~40  | ↓    | 帯広管内における4月中旬までの生乳生産量の前年比は、月計99.1%となっております。5月の初妊牛につきましては、7月下旬~8月中旬の分娩が中心となります。需要が落ち込む夏分娩中心の資源が取引されることから、価格は軟調に推移するものと見込まれます。腹別の資源状況については、雌雄選別腹は地域差はあるものの確保可能な状況であり、F1腹については十分に確保できる状況です。経産牛については、産歴の少ない中クラス以上に対する道内需要が強いものの、夏分娩期に入ることから、先月と比較してやや軟調に推移するものと見込まれます。育成牛については、上物は高値で取引されているものの、全体平均では弱含みで推移する見込みです。                          |
|      | 初妊牛          | 60~70  | ↓    |  |
|      | 経産牛          | 55~65  | ↓    |  |
| 道北管内 | 育成牛(10-12月令) | 25~35  | →    | 道北管内における4月中旬までの生乳生産量の前年比は、稚内管内が月計100.5%、北見管内が月計100.5%となっております。5月の初妊牛につきましては、7月中旬~8月の分娩が中心となります。昨年の酷暑の影響により授精時期が遅れ、夏分娩にずれ込んだことから、資源頭数は増加する見込みです。一方で、上場頭数は過去の傾向から横ばいで推移すると見込まれます。このため、価格は弱含みで推移するものと見込まれます。経産牛については、初妊牛価格の落ち着きに伴い需要が鈍化することから、同様に弱含みで推移するものと見込まれます。   |
|      | 初妊牛          | 55~60  | ↓    |  |
|      | 経産牛          | 40~45  | ↓    |  |
| 道内総括 | 育成牛(10-12月令) | 30~40  | ↓    | 道内全体における4月中旬までの生乳生産量の前年比は、月計99.2%となっております。5月の初妊牛につきましては、夏分娩中心の取引となることから、道内相場は落ち着き、軟調に推移するものと見込まれます。今年度に入り、離農が継続していることから、経産牛の出回りは一時的に増加しているものの、中長期的には酪農家戸数の減少に伴い、搾乳用素牛の資源状況には留意が必要です。夏から秋分娩にかけては出回り資源は比較的多く、相場も軟調に推移する見込みですが、導入を検討されている方におかれましては、早期の導入計画を推奨いたします。   |
|      | 初妊牛          | 60~70  | ↓    |  |
|      | 経産牛          | 45~55  | ↓    |  |

## 今月の表紙



今月の表紙は「第15回酪農いきいきフォトコンテスト」に応募いただいた作品「じいじのお手伝い」(宮崎県 平川良弘氏 撮影)です。

## 編集後記

- ゴールデンウィークはいかがお過ごしでしたか。酪農家の皆様にとっては牧草地や自給飼料畑での作業が進む季節ですね。これから暑さも増す季節、熱中症や紫外線への対策を忘れずに。本誌が、作業の合間にほっと息をつける時間のお供になれば幸いです。
- 会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。  
shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

令和8年5月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 5月号 No.728

- 編集・発行人 飯島洋一
- 発行 全国酪農業協同組合連合会  
〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館  
TEL 03-5931-8003 <https://www.zenrakuren.or.jp/>

今月の

らくのう

こどもギャラリー

入賞作品紹介



うしさんおいしいぎゅうにゅうありがとう

させぼ中央こども園 4歳（九州） 今村羽奏

今月の入賞作品は…

させぼ中央こども園 4歳（九州）の今村羽奏さんの作品です。

画面いっぱい大きな牛さんが描けましたね。迷いのないクレヨンの線が元気  
良いです。背景に水彩で描かれたストライプの色の組み合わせが虹のようで、  
とても心地良い絵だと感じました。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第51回らくのうこどもギャラリー」  
で全国304点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議